

調布教会だより・シャローム

SHALOM

カトリック調布教会

発行人：藤川長喜 編集：広報
〒182-0033 調布市富士見町 3-21-12

Tel.0424-82-3937

Fax.0424-81-6339

<http://chofu-church.ciao.jp/>

2005.6.5

WEB版 No.133

初夏号

キリストの手となり足となり

主任司祭 藤川神父

“もう”と言えがいいのか、“まだ”と言えがいいのか、調布教会主任に就任して二ヶ月。新鮮で充実した日々を送らせてもらっています。人生を学んでいます。人間を発見しています。神様のはからいと、みわざを体験しています。私自身の信仰と人間性が試されています。ありがたいなと、しみじみ感じています。

多勢の方々が主日にあつまり、共に祈り、共に賛歌をささげているのを見るのは、自分のことのように嬉しいことです。誰よりも神様が満足なさって、その方々、その方々とゆかりのある人たち、そして、この地に、たくさんの祝福を注いで下さっているにちがいありません。ただ、主日のミサの前後では、あいさつもそこそこ、ろくにお話もできない状況なのが、とても残念で、心苦しく思っています。おひとりおひとりと、ゆっくりお話をしたくてたまりません。主日以外の時にでもお会いできたらいいなと思っております。

Y教会委員長さんを始め、各分野の役員や責任者、担当者の方々が、実に献身的に働いてくれています。私を助け、支えてくれています。ありがたいことです。いい教会だなあと思います。

主日には、子供や若者たちがあふれかえって、たのもしい限りです。また、ここには多種多様なボランティア活動、清掃や手芸などの奉仕活動が盛んで、それらの成果が、神学生養成、若者育成、貧しい地域国の援助、聖堂建設などに生かされていることに感服しています。また、この教会がAA(断酒の会)や地域の芸術、文化活動に利用されているのも嬉しいことです。これからも、もっともっと、地域の方々に開放されて教会が交わりの場になればいいなと思います。

主日に、教会に来ることのできない人たち、姿をみかけない人たちのことが気になって仕方ありません。ご高齢や病いで来られない人たちについては、すでに親しくしている方や、聖体奉仕者の方々が、つながりを保ち、時には訪問して下さっています。私も状況を知らされて、積極的にお見舞いにかがうようにしています。まだまだ、かかわりを待っている方、助けを必要としている方がきっといらっしゃるはずで

どうか、信徒の皆さんが、主任司祭の手となり足となって、ご高齢の方、病気の方、ひとり暮らしの方、それに様々な事情を抱えて、仲々、教会に来れない人たちと、それとなくかわり、つながりを保っていてくれたらと願っています。私も主任司祭として、どのようにしたらいいか、悩んでおりますし、毎日、祈りの中で、自分の至らなさや無力さのうちに、神様の力と知恵を願っているところです。

前任者小坂神父様をはじめ、委員の方々、多くの協力者のおかげで、聖堂建設への歩みが順調にすすんでおります。「主ご自身が建てて下さるのでなければ、家を建てる人の努力は空しい」(詩編 127・1) そのために、まず私たちは、しっかりと祈りたいと思います。“心をひとつにして神を賛美できる教会を！” “常に感謝の心を養うことのできる教会を！” “信仰の喜びを人々にもたらすことのできる教会を！” (教会建設のための祈りより)

すでに多くの方々からの協力をいただきました。今もさまざまな形で協力して下さっています。これからも、それぞれの置かれた状況の中で、できることをお願い申し上げます。

目にみえる聖堂建設もさることながら、目にみえない信仰共同体である教会づくりも、もっと大切です。ひとりでも多くの方が、信仰を育くみ、深める共同体、信仰の喜びとあかしを分かち合える共同体の仲間として加わることを願ってやみません。そのために、みんなして、キリストの手となり足となる教会づくりを目指していきましょう。そういうことで今年の霊的目標として“キリストの手となり足となり”をかかげたいと思います。

信徒総会開催

5月22日(日)10時のミサ後、信徒総会が開かれました。参加者は約80名。詳細はシャローム別冊(ご希望の方は教会受付まで)をご覧ください。

教会委員会

教会委員長 洗者ヨハネ Y S

4月3日 小坂神父様を囲んで今年度最初の委員会、明日から転任なさってしまう神父様との打合せ、話し合い、なんか複雑な気持ち。

5月1日 藤川神父様をお迎えして初めての委員会、次週の聖体行列の打合せ。当初の予定が大幅変更になってしまったが、子供会、ボーイスカウト、中高生会等大勢が参加出来たのは、課題はいくつか残ったでしょうが、まあまあうまく出来たのではないだろうか。新聖堂建設委からの報告も大分具体化しつつありますが、まだ皆様にご協力をお願いしなければなりません。

うれしいニュースをお届けします。皆様よくご存じの金子神父様が、当教会の協力司祭としてお力を貸して戴けることになりました。御ミサ、告解などお気軽にお願いしてください。神父様もそれを喜んで待っていてくださいます。そしてもうお一人、酒井神父様に替わってピチピチの浦田神父様が青少年司牧担当として着任されました。もうすでに若者たちの心のささえになってくださっている感じを受けます。楽しみです。信徒総会でも申し上げましたが、何かご希望、要望などありましたら教会委員会へご遠慮なく提言してください。

マリア会

マリア会長 F M

藤川神父様が調布教会主任司祭を“襲名”され、2005年度マリア会がスタートしました。

毎月第2日曜日に開かれるマリア会には、藤川神父様も同席され、新しい教会委員、地区委員の間で和やかに意見が交わされています。

マリア会の活動は、毎週土曜日の掃除と年間行事としてバザー、及び主任司祭感謝の日、ドンボスコ祝日、クリスマス、そして復活祭とそれぞれのパーティーの準備があり、毎年地区毎に交代で受け持っています。パーティー等の料理は“母の味”で好評を得ています。

バザーについては、「食堂」、「手芸」、「委託」、「リサイクル」、「寄贈品」を各地区が担当し、10月に向けて準備しています。昨年の末には、「手芸の会」を立ち上げ、バザーの時に、「手芸」担当地区に協力したり、製作した品物を販売して、教会建設資金を得る事を目的として、毎週火曜日午後1時から集まって作業しています。また今年はいよいよ多くの信徒の方と出会う事が出来ればと思い、親睦会と黙想会を予定しています。

神様のお恵みをいただき、それぞれの小さな力がひとつの大きな力となって、楽しく活動できる事に感謝しています。

アンナとヨアキムの会

“仲間っていいね！”

M J

聖母マリアの両親の名はアンナとヨアキムと言われています。

マリアを生み育てたお方の名をいただくこの会は信仰に裏づけされた「成熟した大人」を目指すグループなのです。

以前は高齢女性の方々が神父様と共に信仰を深める場として大切にしてきました

が途絶えて久しく、2年前に男性も一緒になって復活しました。

その後ゆっくりと無理のないやり方で回を重ねてきた結果、現在では毎月20名をこえる参加者があり、互いに顔と名前を覚え親しさも増してきました。

定例会では聖堂でロザリオの祈り一環を唱え、神父様のお話、マリア会室で分かち合い、クリスマス会、お花見など季節の行事を取り入れながら聖書を学び、中高年齢層の魅力的な生き方を探り、配食弁当の試食会、老人ホーム見学会などを続けてきました。

これからは体調をくずしたり、教会に来ることが難しくなってきたときに顔なじみになった仲間が互いに訪問し合い、支えあっていけるようなグループに育つよう多くの方々の参加をお待ちしています。

定例会： 毎月第三金曜日 午前10時30分～12時30分
調布教会 聖堂およびマリア会室
どうぞお気軽にご参加ください。

青年会

「今年の青年会活動について。若者から見た教会像」

浦田 慎二郎

今年から青少年司牧担当、特に青年会担当になりました浦田です。さて、今年の青年会活動について簡単に紹介してみましょ。長らく調布教会を離れていたので去年までのことを全然知りません。未だ手探りでいろいろやっている状態ですが、青年会活動に関してまず日曜日については二つに分けられるでしょう。何人かの青年たち、今現在は学生が主ですが彼らは小学生を対象とする日曜学校のリーダーをやってくれています。非常に助かりますし、頼もしい存在です。そしてもう一つは普通に10時半のミサに来て、その後青年会室で和やかなひと時を過ごすグループがあります。目的はただ一つ、「イエスのもとに集って安らぐ」。日ごろの激務から離れて疲れを癒す場とも言えましょ。そして午後からリーダーたちが奉仕を終えて帰ってくると、共に昼食を食べ、まったりとしたり、スポーツを一緒にしたり、カードゲームに興じたり、時には何かの話し合いをしたりして過ごします。

日曜日以外の活動としましては、毎月第2土曜の晩8時から行われる聖書研究会があります。研究という学術的側面よりは共に聖書(主に次の日の福音)を読んで黙想し、分かち合うといったものです。聖書を通した祈りの集いとも言えるでしょ。うか。

その他にも休日には何かイベントを企画したり、いろいろやっております。この青年会の特徴、もしくは目指しているものはなんでしょう。まず一つにはこれはただの「仲良しグループ」ではない、ということです。さまざまな年齢、出身、

職業、性格をもった人たちが「キリストを信じる」というただ一つの共通項の下に集まって日曜のひと時を共に過ごし、また新たな週に向けて力を蓄える場所とは言えるでしょう。ですから一人一人にはお互いの違い・良さを認めお互いを尊重しようということが求められます。簡単なことではないですが、また、新しく来た人を常にやさしく迎えられるオープンな姿勢も求められるでしょう。

最後に、先日集まった青年たちにどのような教会を求めているかという質問を試みました。適当に彼らの意見を紹介しておきましょう。

- ・自分たちのためだけでなく様々な人のために祈れる教会
- ・周りの人との交わりを通して充電できるような教会
- ・教会全体の行事を多くしてもっと交われる教会
- ・内向きではなく外に向けてやさしくなれる教会
- ・仲間のいる教会
- ・若者にも魅力のあるミサに参加できる教会
- ・カトリックとは何かが分かり、一般の人たちにもアピールできる教会

などという意見ができました。教会の他の人々共に協力しながら理想の教会をつくりあげていきたいものです。また、今まで青年会の活動に参加したことのない方、全く拘束されませんので好きなパートだけでも是非参加してみてください！

中高生会

あなたの若き日に、造り主をおぼえよ 中高生会より

岡本大二郎

中高生会の活動のお手伝いをするようになってから二ヶ月が経ちました。毎日曜日、十名前後の中高生が参加しています。女子の方がやや多く、二十数名の登録者のうち、半分以上は、洗礼を受けていません。9時15分の子どもミサに参加した後、午前中は、要理・分かちあいを行い、お昼ごはんを一緒に食べ、午後は、ゲーム、スポーツなどをして夕方まで時間を過ごす、というのが大体のスケジュールです。今年度は、サレジアン・シスターズの Sr. 荻田愛さん、Sr. 坂井佐奈栄さん、Sr. 宮澤直子さん、中高生会 OB・OG の I A さん、I K さん、K M さんが中高生会に関わっています。自画自賛になってしまいますが、一緒にいてほっとする、気持ちのいい仲間が集っています。キリストによって建てられた教会に、キリストに呼ばれて集まっているわけですから、単なる仲良しクラブになってしまうことなく、深いところで仲間と出会い、同時にキリストとも出会う場になるように祈りながら、活動しています。昨年度から、多摩東宣教協力体に属する多摩教会の中高生会との交流が始まり、合同の行事を年に何度か行うようになりました。お互いによい刺激を受けています。この夏は、野尻湖で、ともにキャンプを行う予定です。小さなグループですが、調布教会の将来を担う中高生たちです。今後ともよろしく願います。

日曜学校をご存知ですか？日曜学校は小学生を対象に、日曜日の9時15分の子供のミサを中心として、主に午前中活動しています。

日曜学校そのものは歴史が浅いです。その前身となるのはサレジアン・シスターズがなさっていた女子小学生向けの子供会と男子小学生向けの侍者会です。そして、青年会からもお手伝いいただくようになりました。

活動は前述のように9時15分のミサが中心で、要理や聖書のお話しを特に大切にしています。しかしそれだけではなく、グループに分かれてスポーツ、料理、工作などをしたり、自由に遊んだりもしています。

このような日曜学校も3年目になりました。今年度の日曜学校の展望を、とのことですが、チーフスタッフとして、私が望んでいることは、スタッフであるリーダーを始め、子供たちも神様のことをよく知って、喜びを持って活動することです。また、教会のみなさんと、いろいろな機会にもっともっと関わっていくことです。そして何よりも教会が好きになってほしいと思っています。

これから夏に向けて、サマーキャンプの準備が始まります。サマーキャンプは調布教会の大きな行事であるとともに、子供たちが楽しみにしている行事です。どうぞ今年もよいものとなりますように、お祈りください。

洗礼のお恵みを受けて

F J

私は2ヶ月前に洗礼を受けたばかりの、56歳にしてわかばマークの信者です。ベテランの信者の方々から見ると、以下は噴飯ものかもしれませんが、どうか私を導いてください。

生意気で頑固な私にとって、カトリックの洗礼を受けると言う事は、極端に言うとう自分を捨てると言う事でした。つまり、自分自身の判断で正しいと思う生き方を放棄して、主イエスキリストに自分を丸投げするという事でした。そんな私が洗礼を受けようと決心したのは、歳月を降るごとに解決できない事柄の堆積と、一方、ずっと以前から信者である家族の影響によるものでしょう。

さて、洗礼を受ける事ができ、ミサにあずかり、祈りの言葉にも親しむようになり、そして、祈りの中で、「多くの人たちにたくさんのお恵みをお与えください」と唱える時、なんと自分自身が平安な気持ちになる事に気がつきました。

洗礼を受ける前も他人に感謝する気持ちは持っていました。しかし感謝する気持ちは自分が主体で、他人にお恵みをお与えくださいと祈る気持ちは神様が主体、自分が客体で、これは洗礼を受けた事によって、神様から頂けたお恵みなのかなと、拙く感じております。

堅信の秘跡

5月15日(日)目白のカテドラル大聖堂で5名の方が大司教様より堅信の秘跡を受けました。この日のために、中高生会担当の岡本神学生やシスターが心を込めて準備してくださいました。秘跡を受けられた皆さん、おめでとうございます。

『若葉マーク塾』開講

洗礼を受けて間もない方で戸惑っている方、以前に受洗したが未だに戸惑っている方を対象に、『若葉マーク塾』を開講いたします。

秘跡(聖体、ゆるし、病者の塗油)の受け方。日常の祈り、ロザリオの祈りなどの唱え方。ミサ(歴史、構造、立居ふるまい、典礼暦など)のあずかり方。聖書とのつきあい方などを藤川神父様が懇切丁寧に教えてくださいます。

毎月第2、第4土曜日を予定しています。

「一緒にしませんか？」

掃除というのは、毎日しなければならぬものでしょうが、最近のように主婦が外で働くようになると、家事全般を毎日きちんとこなすというのが、とても難しくなっているのが実情です。

それでも、休日には腕まくりをしてやる気満々で家事に挑みますが、どうも昔のようにてきぱきと片付きません。うかうかしていると、たいした掃除もしないうちにお昼になってしまい、お昼を食べると眠くなって、結局私は一日何をしていたんだろうと、反省したり、焦ったり。

そこで、最近息子や娘に手伝ってもらうことにしました。あなたは床を拭いて、あなたは洗濯、私は台所と分担すると、なんと一時間くらいである程度終わることができるのです。やはり、人数にはかかせませんね。

教会のお掃除も、たくさん集まってくる地区はあつという間に終わってしまいます。そして、終わったあとの語らいも楽しそう!!

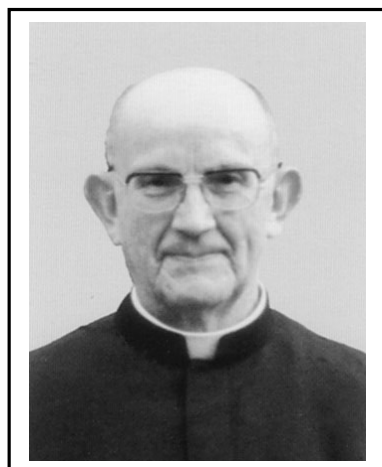
マリア会といわず、最近男の方の姿もちらほら。ありがたいです。

さらに、今年は掃除の後のお茶会に、藤川神父様の楽しい話も加わって盛り上がりそうな予感です。教会とのかかわりを持ちたいと望んでいらっしゃる方、まずは教会のお掃除から参加してみてはいかがでしょう?

ダルクマン神父様帰天

調布教会第4代主任司祭のヨハン・ダルクマン神父様は5月10日、桜町病院で慢性心不全のため、帰天されました（93歳）。

ダルクマン神父様は1912年1月15日ドイツ・リームケに生まれ、1934年ドイツ・エンスドルフにて初誓願。1933年に来日し、1942年東京にて司祭叙階。戦前、戦後の苦しい時期にチマッティ神父様を助け、日本のサレジオ会発展に尽くされました。管区長、神学院院长、鷺沼・調布主任司祭を経て、調布神学院聴罪司祭と64年に及ぶ司祭生活、70年に及ぶ修道・宣教師生活でした。



生涯、確固たる信仰を貫かれたダルクマン神父様、どうぞやすらかに。

ダルクマン神父様の思い出

Y H

かれこれ20年前のことになるでしょうか。私がサレジオ神学院の受付に勤務していた頃、当時の院長でいらした溝部神父様（現司教様）は、『ダルクマン神父様はとても従順な方です』と事あるごとにおっしゃっていました。目上である院長様に従順なことは当然のことなのかもしれません。しかし長い間、サレジオ修道会の長上としての役職につかわれていたにもかかわらず、ご自身のお立場をきちんとわきまえておられたダルクマン神父様は、修道者としてご立派であったと思います。

また、清貧にも徹底しておられました。徐々にドイツにお帰りになると決まったとき、全くお金を持たずに行くとかたくなにお断りになったということです。でも『旅の途中で何があるか分からないのでどうかお持ちください』と院長様がお頼みしてわずかなお金を持参していただいたということもお聞きしました。お元気でいらした頃、神父様は神学院の庭を散歩なさりながらよくロザリオを繰っていらっしゃいました。

ある夏のこと、人気のない静まり返ったグランドの片隅のユースセンターで、神父様が壁に寄りかかるようにしておられるのでお具合でも・・・と思い、近寄ってみるとお祈りをしているらしやるのでした。夕陽が落ちる瞬間のあの静寂の中で神父様のお姿は一幅の絵のように印象深く、忘れることが出来ません。

私事になりますが、私の母がプロテスタントからカトリックに改宗を希望していた時、ダルクマン神父様に大変お世話になりました。お勉強は大変厳しかったようです

が、母は終わった後のおしゃべりを楽しみに、休むことなく教会に通っておりました。たぶん話好きの母のおしゃべりを忍耐強く聞いてくださっていたのでしょう。受洗後も勉強は続けなければいけませんとおっしゃる神父様のおことばに背いて『悪い生徒』のまま今日に至っております。

私たちに信仰に対する厳しさと人に対する思いやり、優しさを身を以てお示しくくださったダルクマン神父様、主の御許でどうぞ安らかにやすみくださいませ。

ありがとうございました。

ダルクマン神父様へ 心からの感謝をこめて

N K

ダルクマン神父様がお亡くなりになったとの電話をいただいた時、いつか必ずお別れの時がくることを頭の中ではわかっているつもりでしたが、今まで私たちの心の支えであっただけに、信じたくない思いでいっぱいになりました。

私たち家族はダルクマン神父様から洗礼のお恵みをさずけていただきました。神父様はお会いするといつもやさしい微笑とあたたかい言葉で私たちを励ましてくださいました。

すべてを静かに受け止めてくださるあたたかいお人柄と常に祈りをささげていらっしゃる神父様のお姿は、いつまでも心の中に生きつづけています。ありがとうございました。

調布教会共同墓所のご紹介

緑豊かなカトリック府中墓地の一角に調布教会共同墓所が完成して4年がたちました。

毎年、死者の月には主任司祭、教会委員長をはじめ、大勢の信徒が墓前で祈りを捧げています。

調布教会として確保してある納骨棚にまだ余裕があります。備えておきたいとお考えの方は、いつでも受け付けておりますので教会窓口へお越しくださるか、お電話ください。

